2019.3.2　みんなねっとフォーラム2018

職種を超えた連携から生まれる新しい取り組み

～家族も参加する地域事例検討会～

さいたま市精神障がい者もくせい家族会
佐藤　美樹子

さいたま市の概要

- 埼玉県東南部に位置する県庁所在地
- 面積217ｋ㎡　・人口130万人(平成３０年１２月現在)
- 平成15年4月全国で13番目の政令指定都市
- こころの健康センター・保健所・10区に保健センター
- 精神科病院数 6病院 ・精神科クリニック数 約50ヶ所
- 精神科訪問看護ステーション 4ヶ所
- 訪問看護ステーション（精神疾患も可）　１２ヶ所
- 包括型地域生活支援ACT 1ヶ所（ACTふぁん）

さいたま市内の家族会

- もくせい家族会(135名)
- みなわ会（61名）
- 浜砂会（43名）
- いちご会（10名）
- 西部みどり会

さいたま市精神障害者家族会連絡会

＜主な活動＞

- 年6回理事会開催
- 家族教室を開催
- 市障害者週間に参画
- **メンタルヘルスネットワークを主催**
- **市民活動への参画**

・市への要望書提出と懇談会

もくせい家族会のはじまり

ー我が子の居場所を創るための活動ー

1981年　埼玉県内で初めて精神障害者の作業所を始めたことがきっかけとなって家族会が立ち上がる

- 小規模作業所２ヶ所を立ち上げ運営する

　　ふぁくとりー（お弁当やさん）

　　ラウンジ南浦和（居場所・生活訓練的な作業）

2004年　社会福祉法人　もくせい福祉会設立

　　授産施設と小規模作業所2ヶ所の運営

通所施設は創ったけれど・・・

家族会会員の抱える現状は変わらなかった

もくせい家族会活動の転機

2009年　家族会アンケート調査を実施
家族が資金と労力をかけた施設を利用できたのは
会員の**約2割**の当事者だけ、**多くは自宅療養のまま・・・**

自分たちがやってきたことは何だったのだろう
そこに施設があっても「つながる」ことの困難さ
家族が運営する施設は当事者にとって社会なのか
施設につながれない当事者はどうしたら…
「つなぐ」「つながる」支援を考えたい

つなぐ・つながる　ために

社会資源である施設づくり…実は内向きの活動だった

自分たちの状況を自分たちで解決しようとしていた

⇓

当事者が外とつながる　＝　**家族が外とつながる**

まずは家族が元気になる

閉じた家庭生活から地域を取り戻す

家族の体験や課題を外に向かって声にしよう

⇓

家族自身のリカバリーを会の目標に！！

地域に視点を向けた家族会活動へ

家族にできることは・・・**家族自身の体験に基づいた活動**

1．会員が抱える「当事者のため」に向けていた視点を

家族自身に向ける　　⇓

地域で孤立した家族への支援・家族の相互支援

2．家族自身の体験が社会の役に立つ

⇓

家族による家族学習会・家族のリカバリートーク

3．家族の体験に耳を傾けてくれる地域の人々とのつながり

⇓

家族会は家族本来の活動へ

家族会会員が福祉会の要職から徐々に離れる
家族が抱える課題を考える家族支援活動が中心に

2006年～埼玉県立大学で家族の体験を語る

2009年～家族による家族学習会プログラム

月１回のＡＣＴについての勉強会を開始

2010年～家族のリカバリートーク

2011年～家族会アウトリーチ活動（もくせいお茶飲み隊）

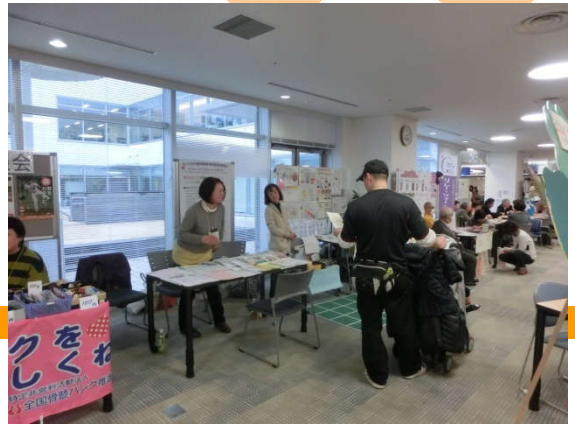
2012年　家族会と福祉会の組織分離

2014年　**市民活動フェスティバルに参画**

地域に活動する市民団体として

＜さいたま市市民活動サポートセンター＞

- 拠点を持てないためロッカー・郵便箱を確保
- 毎年春に開催のフェスティバルにブース参加
  - ポスター「統合失調症とは？」
    「心が疲れていませんか？」
  - スタンプラリー　統合失調症問題を出題
  - 絵本の読み聞かせ(そらみみがきこえたひ)
  - 書籍の紹介
  - 家族会パンフを配布
  - 家族相談



月１回ＡＣＴ実現のための勉強会

会場：さいたま市保健所の会議室

講師：伊藤順一郎先生・久永文恵氏

参加者：さいたま市精神障害者家族会連絡会３名
さいたま市保健所職員３名～４名
さいたま市障害福祉課課長補佐　１名
埼玉県立大学教員　１名

内容：ＡＣＴとは何か？
その理念・支援の実際
今ある資源の活用を考える

情報発信
啓発活動
人材発掘

さいたま市ＡＣＴ連続講座の開催

・2010年4月～8月にかけて5回の講座を開催

第1回	多職種での連携が必要なわけ-福祉と医療の結合
第2回	ストレングスモデルをケアマネジメントの中核にすえる
第3回	ＡＣＴによる支援の実際
第4回	ＡＣＴにおける精神科医の役割
第5回	ＡＣＴを経営面から考える

・市内の医療関係者、当事者、家族が参加
・毎回80名前後の参加者
・ＮＨＫテレビの取材が入りＥテレで放映された

ＡＣＴに興味関心のある方たちとつながる

連続講座参加者の中から

- ＡＣＴに興味関心がある
- ＡＣＴをやってみたい
- いずれはＡＣＴに関わりたい

- 定期的に会議開催
- 懇親会開催

参加した方々

行政…保健師　　支援センター職員

医療関係者…精神科医、看護師

訪問看護Ｓｔ．…看護師

地元の大学教員　　当事者・家族

行政からの声かけで参加した人の中には後ろ向きな発言をする人も…本当にやりたい人で話したい

アウトリーチ支援実現のために

１．月1回の会議を継続

・ＡＣＴ実現のためにできることを模索

・人材の確保対策

・ＡＣＴ利用者の確保対策

・様々な人たちと顔と名前のわかる関係づくり

・やる気のある人を皆で応援する

２．年に2回の研修会を企画開催

・市内の医療機関、訪問看護ステーション、障害者生活支援センター、包括支援センター、家族会などへチラシ配布

さいたま市にＡＣＴが…！！

2011年5月～市内初　精神科専門訪問看護St.

2012年4月～

地域に古くからある精神科病院でＡＣＴが活動を始める

ＡＣＴ・訪問看護を利用

- 未受診
- 長期にひきこもり
- 入退院を繰り返していた
- 親の高齢化で親亡き後の心配

利用したくても利用できない家族がいる

つなぐ・つながる

もくせいお茶飲み隊の始まり

2011年４月から会の活動として開始

＜始めたきっかけは…＞

- 様々な家族調査から訪問型支援のニーズが明らかになった…
- もくせい家族会でも会に参加しているのは会員の３割程度に過ぎない…
- 要望するばかりでなく、家族会活動にも訪問型支援を取り入れてみよう
- 「家族による家族学習会」の実施により、家族同士の語り合いの経験を積んでいた

もくせいお茶飲み隊の概要

訪問するのは

・グループワークの研修を受けた家族会員

・複数で訪問（２名で訪問が基本）

訪問の目的は（訪問する側の心得として）

・家族の話しや悩みを「聴く」こと

・その方が知りたい情報を提供すること

・閉じた家庭に風を送り込むこと

・近隣のおばさんがお茶飲みに立ち寄る感覚で
　邪魔にならない支援を心がける

直接、当事者に働きかけることはしない

家族会は何をしてきたか…

アウトリーチ支援が立ち上がるまで

・隠れたり、隠したりしていては何も動かない

・家庭の中や外で起きている様々な困難を語る

・家族の体験と思いを伝える…伝わるように、繰り返し

これらの活動を通して地域の賛同者と出会ってきた

地域を耕す家族会活動

アウトリーチ支援が立ち上がったら

・会員にアウトリーチの支援の利用を促す

・なかなか利用に踏み切れない人の背中を押す

地域の支援と連携

・さいたま市の保健センター（２区）で開催する事例検討会

市内の精神保健医療福祉関係機関から支援者が参加し、家族会から家族も参加

・地域ネットワーク会議（精神）当事者・家族も参加

・誰もが共に暮らすための市民会議

一般市民も参加

「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」

（通称：ノーマライゼーション条例）

地域の支援と連携

- ACT推進会議→メンタルヘルスネットワーク
- 新たな精神科訪問看護ステーション開設
- 訪問型の精神科クリニック開設
- 2016年～埼玉県地域事例検討会（年5回）始める

  医師・保健師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士・ヘルパー・就労支援事業所・大学教員etc

  地域の病院や事業所（保健医療福祉）・職種を超え家族も参加して発言、顔の見える関係

- **支援者と家族が協働する地域づくり**

埼玉県地域事例検討会

ご清聴、ありがとうございました